



ロータリー:
変化をもたらす



2017-2018 年度

国際ロータリー会長 / イアン H.S. ライズリー 会長 / 佐々木 哲也 副会長 / 小汀 泰之
2690地区ガバナー / 池上 正 幹事 / 曾田 敏康 会計 / 高砂 明弘

■平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL: 0853-63-3232 / FAX: 63-5365 / IP: 050-5204-5816
URL: <http://hirata-rotary.jp/> Mail: office@hirata-rotary.jp
9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

■例会プログラム

例会日	卓話者	演題
2月8日	会員 田中 浩史	ルーマニア紀行
2月15日	休会	
2月22日	職業奉仕委員会	優良者表彰
3月1日	会員 松浦 剛司	新入会員スピーチ

■出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前々回補正出席率
44	25	19 (4)	62.50%	74.36 %

■欠席者

黒田 / 飯塚後 / 石原俊 / 石原輝 / 岩浅 / 杉原 / 松浦 / 持田 稔
山口 / 板垣 / 三好 / 飯塚大 / 日野 / 大谷良 / 園山
(山根 / 牧野 / 遠藤 / 大谷厚)

■来訪者

なし

■メイクアップ

2/7 大島卓・黒田・高砂(大社)

■次回例会受付当番

(2月22日) 山口 弥 / 三好洋平 / 小汀泰之

(3月1日) 土江光二 / 大島卓爾 / 大谷厚郎

■近隣クラブ例会情報 (メイクアップを考えましょう)

月	出雲中央	3/19(-)	4/9	4/23(-)	松江南
		5/28(-)	6/18	6/25(-)	
火	出雲	2/13(-)	2/20	3/13	松江しんじ湖
		3/20(-)	5/1(-)		2/13
水	大社	2/14(-)			松江
木		(-) ;	ビジター受付	なし	松江東
金	出雲南				

■会長挨拶

国際ロータリー(RI)のゾーン数が34ということは、9月の例会時にお話ししましたが、日本国内の地区数も、偶然なのか必然なのか34です。地区ガバナーは、各地区で唯一のRI役員に位置づけられています。

私たちが所属する2690地区は鳥取・島根・岡山の3県で構成されており、山陰の2県に加えて岡山県が加わっている理由には、出雲街道や伯備線によるつながりが大きいものと思います。

先週配布されたガバナー月信によると、12月末時点での地区内会員数は3070人。第1・2グループ(G)で構成される鳥取県は計664人、第3・4・5Gで構成される島根県は計681人、第6～11Gで構成される岡山県は計1725人で、その比率は、およそ1対1対2.6となります。手元にあった12年前2005年の月信を見返してみたところ、会員数は軒並み減少していますが、3県の会員比率はほとんど変わっていません。

地区内でのガバナーの選出は、鳥取→岡山(6・7G)→岡山(8・9G)→島根→岡山(10・11G)の順に輩出されることになっていますが、これは各県の会員数に応じた割り振りになっています。なお岡山県内のグループ分けは、県西部の備前地域が6G、倉敷地域が7G、県北部の美作地域が8G、県東部の岡山市を含む備前地域が9G、10G、11Gに分けられているようです。

2月18日には第3・4・5G合同のIntercity Meeting(IM)が開催されます。6Gと7Gでは、それぞれ単独で開催されているようですが、その他の1・2G、8・9G、10・11Gはそれぞれ合同でおこなわれています。

■幹事報告

IM ご出席の皆様(登録者19名)

2/18(日) 13:00～17:40

会場: 大田市 島根県立女性参画センターあすてらす

集合場所 平田商工会議所(マイクロバス)

集合出発 10時30分(会場付近で昼食)

■スマイル

佐々木(今日は大雪の中での例会出席、皆さんお疲れ様です。田中浩史会員スピーチよろしくお願ひします。)

曾田(田中会員、本日のスピーチ「ルーマニア紀行」楽しみにしております。その節には妻も同行させて頂きありがとうございます。)

大谷厚(1月25日職場訪問例会、一畑クッキングへお出でいただきありがとうございました。)

■スピーチ・例会行事

「ルーマニア紀行」 田中 浩史 会員

平田市国際地域交流センターに関わるうちに、現地に長く住む温泉津出身の若林一宏氏を介してクルージュのバベシユ・ボヤイ大学の図書館に日本語の図書を送る運動を行い、それが縁となって島根トランスルバニア協会の主催する日本文化週間の一翼を平田市国際地域交流センターが担うことになった。

1997年6月、関西空港からスイスのチューリッヒ・ハンガリーのブタペストから列車に揺られ約8時間、国境を越え目的地のクルージュ・ナポカ市へ。共産圏の東欧でも最も開放的な政策をとったハンガリーに対し、ルーマニアが戦後チャウセスク大統領の独裁のもとで悲惨を極めた歴史を歩んだ痕跡が、国境を挟んで象徴的にみとれた。ハンガリーが広大な豊かな穀倉地帯であるのに、降った雨でぬかるんだ農地、数え切れない廃虚と化した工場、製品を運んだであろう放置された草の絡まった貨車や錆びた蒸気機関車、馬車で移動する農夫、廃棄された木造有蓋貨車に住む人々、余りにも対照的であった。降り立ったクルージュの街は、旧東ドイツあたりで使われていたであろう、紙とプラスチックで出来た有名な大衆車「トラバント」を筆頭とする排気ガスのひどい車が走り回り、トリーバスのパンタグラフが火花を散らしている。道路はいたるところで掘り起こされた穴があいている。かつてトランスルバニアの首都であった街の建物は古く重厚で歴史を感じさせ、見た目は美しいが、表面の漆喰？がはがれ煉瓦がむき出しになっていたり、屋根が波打って半壊状態の建物も多くある。かつて城塞都市であった時代の城壁や、ローマ時代の



遺構も到る所にあるがほとんど放置状態のようだ。物乞いのジプシーも多い。

日本文化週間はわずか4日余りの日程で、我々メンバーの謡で始まった開会のセレモニーから写真展・ビデオ上映・書道講習・座禅等のカリキュラムが用意されていた。



クルージュで5日間を過ごしシビウを経てハンガリーのブタペストに再び戻った。一週間ぶりのブタペストは明るいショーウインドウ、ネオンが瞬き、ドナウクルーズと称した観光用の船がアメリカや日本の観光客を乗せて走り、日本食や中華レストランがあり華やいていた。美術館はその建物がまさしく芸術品であり、展示されている絵画も時間を忘れるほどすばらしかった。



街の戦乱で破壊された建物もほとんどもとどおりに修復されわずかに銃



弾の後が残る壁面があるが美しい街で、同じ社会主義を歩んだハンガリーと国境を一つ隔てたルーマニアとは余りにも対照的だった。